

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	解剖学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する器官を形態、構造、機能及び器官相互の位置関係について学び、説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器官の系統的な分類を理解する。 ・ 人体の外形と構成を理解する。 ・ 器官の形態、構造、機能機関相互の位置関係を理解する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論：解剖学の種類、人体の構成、用語 1. 骨格系（1）：構造、機能	11	5. 神経系（2）：末梢神経系
2	1. 骨格系（2）：体幹骨（胸郭、呼吸） 上肢骨（鎖骨と頭蓋骨の関係等）	12	6. 呼吸器系：上気道・下気道～肺
3	1. 骨格系（3）：下肢骨（寛骨と腸骨 恥骨、坐骨の関係、骨盤の性差）	13	7. 感覚（1）：一般的性質、皮膚、粘膜 眼、耳
4	2. 筋と運動（1）：構造と機能 筋の形状と分類、頭部、頸部、背部	14	8. 泌尿器系 9. 生殖器系
5	2. 筋と運動（2）：胸部、腹部、上肢、下肢	15	10. 内分泌系
6	3. 消化・吸収（1）：消化管の構造 口腔～食道、嚥下	16	
7	3. 消化・吸収（2）：胃～大腸、肛門 肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜後器官	17	
8	4. 循環（1）：血管系の概要（構造、 血球、組織）・心臓・動脈	18	
9	4. 循環（2）：静脈系・リンパ系 胎児の循環	19	
10	5. 神経系（1）：概要・構成 中枢神経系	20	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（P C 連動）、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。

授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価 80% 授業態度 20%

教科書

歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学

参考書

プロメテウス解剖学アトラス (医学書院)

人体の構造と機能 (全10巻縮刷版) (日本医事新報社)

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	組織・発生学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する最小の基本単位である細胞の構造と、その集団が一定の配列や形態をとってできた組織の構造と機能について学び、説明できる。				
	さらに人体と口腔の発生過程についても学び、それを説明できる。				
	到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞と細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・組織の種類、構造と機能を理解する。 ・人体の正常発生過程と先天異常を理解する。 					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	細胞：細胞の構造、細胞の一生	6	発生①染色体と減数分裂,精子と卵子, 受精と着床
2	組織①種類と構成、上皮組織、支持組織、結合組織	7	発生②胚葉の形成、胎児の成長と発育
3	組織②骨組織	8	顔面と口腔の発生① ※「口腔組織学」の内容
4	組織③筋組織	9	
5	組織④神経組織	10	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（P C 連動）、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。

授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価 80% 授業態度 20%

教科書

歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学

参考書

カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 井上貴央監訳（西村書店）

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯の解剖学（スケッチ含む）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子 他	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	永久歯および乳歯の形態、表面構造、機能と歯種の鑑別について学び、説明できることを目的とする。				
	到達目標				
	①歯の名称、表示法、用語を理解し説明できる。 ②永久歯と乳歯の形態、表面構造と機能を理解し説明できる。 ③歯種の鑑別を理解し、説明できる。 ④正常な歯列と咬合を理解し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯の概論①	11	乳歯①（乳前歯）
2	歯の概論②	12	乳歯②（乳臼歯） 歯の解列と咬合関係、異常歯①
3	永久歯①（特徴、前歯①）	13	歯型彫刻③（上顎第一大臼歯①）
4	永久歯②（前歯②）	14	歯型彫刻④（上顎第一大臼歯②）
5	永久歯③（小白歯①）	15	歯型彫刻⑤（上顎第一大臼歯③） 45分
6	歯型彫刻①（上顎中切歯①）	16	歯の解列と咬合関係、異常歯② 45分
7	歯型彫刻②（上顎中切歯②）	17	
8	永久歯④（小白歯②）	18	
9	永久歯⑤（大白歯①）	19	
10	永久歯⑥（大白歯②）	20	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、顎模型を用いて講義を行う。

石膏棒を削り、上顎中切歯および第一大臼歯を作成する。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（PC連動）、配布プリント、歯牙模型

歯型彫刻時に使うものは、追って連絡する。

履修上の注意事項

歯の形態を知ることは、歯の清掃指導、歯頸部のスケーリング等に関して、非常に重要である。

歯の解剖学の学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。

成績評価方法

試験点数を70%。平常点10%。

歯型彫刻実習の配点は、20%とする。（出席点と製作物の提出点を基礎点とする）

教科書

歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔組織学」

参考書

最新歯型彫刻 理論と実際 第2版 （医歯薬出版）

基礎から学ぶ 歯の解剖 （医歯薬出版）

予習復習のアドバイス

覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、授業後にも授業内容をしっかりと

復習すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	口腔解剖学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔解剖学の概要を学び、口腔の解剖について理解し、口腔を解剖学的側面から説明できる。				
	到達目標				
	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる様にする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	頭蓋を構成する骨② 頭頸部の筋と作用①	6	口腔付近に分布する神経系① 脳神経（1）
2	頭頸部の筋と作用②	7	口腔付近に分布する神経系② 脳神経（2）
3	顎関節 口腔付近に分布する脈管系① 動脈系	8	口腔付近に分布する神経系③ 自律神経系
4	口腔付近に分布する脈管系② 動脈系	9	
5	口腔付近に分布する脈管系③ 静脈系・リンパ系	10	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（PC連動）、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。
授業中の私語、携帯電話の使用、途中退席は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価80% 授業態度20%

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

参考書

プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部（医学書院）

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	口腔組織学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔組織発生学の概要を学び、歯と歯周組織の発生について理解し、それを説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯と歯周組織の発生過程を理解する。 ・ 歯と歯周組織の構造と機能を理解する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	顔面と口腔の発生②	6	口腔の構成①（※口腔解剖学） 口唇・頬・歯肉・舌
2	歯と歯周組織の発生	7	口腔の構成② 口蓋・咽頭（※口腔解剖学）
3	歯及び歯周組織の構造と機能① エナメル質	8	頭蓋を構成する骨① (※口腔解剖学)
4	歯及び歯周組織の構造と機能② 象牙質・セメント質	9	
5	歯及び歯周組織の構造と機能③ 歯槽骨・歯肉・歯根膜	10	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（PC連動）、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。

授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価80% 授業態度20%

教科書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能

口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科衛生士概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤暁子 若木まみ	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科衛生業務の考え方や行動を理解し、歯科衛生士としての基本的な態度を身につける。多様な科目においての知識・技術を取得する態度および倫理的思考法の基礎を習得する。				
	到達目標				
	歯科衛生士が歯科疾患の予防処置、歯科診療の補助および歯科保健指導を中心とした歯科衛生士業務を専門職として実践するための倫理的、実践的根拠を理解し、身につける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯科衛生士とは	11	歯科衛生過程
2	歯科衛生士の歴史	12	災害歯科保健活動
3	歯科衛生活動のための倫理	13	臨床実習の心構え
4	歯科衛生士法と歯科衛生業務	14	職能団体 今後のニーズ
5	求められる技能と心構え	15	海外における歯科衛生士
6	安全管理 リスクマネジメント	16	
7	歯科衛生士と医療倫理	17	
8	医の倫理と患者の権利	18	
9	インフォームドコンセント	19	
10	歯科衛生過程	20	

講義方法

講義、演習、グループディスカッション、小テスト

講義で使用する機器・教材

- 履修上の注意事項**
1. 歯科衛生学総論教科書を必ず持参すること
 2. 配布資料は国家試験が終わるまで無くすことのないようにすること

成績評価方法

筆記試験（100％）

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科衛生士総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修

予習復習のアドバイス

ファイルを準備し、配布資料やノートは整理し保管しましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	歯科予防処置Ⅰ-1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤暁子 若木まみ 他	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科予防処置についての専門的な知識と態度を習得する				
	到達目標				
	①歯科予防処置について（う蝕と歯周病、フッ化物の応用等）概要と基礎知識を理解する。 ②歯周治療の方法を理解し、歯周組織検査や治療に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ③スクレーピング技法に必要な器具の把持法を理解し、シクルスケーラーの基本操作を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯科予防処置論の概要① 歯科予防処置とは p2～p13	11	う蝕と歯周病の基礎知識③ う蝕とは p32～p37
2	口腔の基礎知識① 歯科衛生士とは、用語や歯式について	12	う蝕予防の基礎知識① う蝕に関する指標と検査 p165～166、p172～174
3	口腔の基礎知識② 口腔・口腔周囲の構造と機能 p16～p27	13	フッ化物局所応用によるう蝕予防法① フッ化歯面塗布 p229～p237
4	う蝕と歯周病の基礎知識① 口腔内の付着物・沈着物 p28～p32	14	フッ化物局所応用によるう蝕予防法② フッ化物洗口 p237～p242
5	う蝕と歯周病の基礎知識② 歯周病とは p37～p43	15	フッ化物局所応用によるう蝕予防法③ フッ化物配合歯磨剤、急性中毒への対応 p243～p251
6	歯周治療の基礎技術① 器材の配布と使用目的、管理 p137～p148（机上）	16	
7	歯周治療の基礎技術② Scの把持法と前腕回転運動（机上）	17	
8	歯周治療の基礎技術③ 手根関節運動（机上）	18	
9	歯周治療の基礎技術④ 手指屈伸運動・連続運動（机上）	19	
10	歯周治療の基礎技術⑤ まとめ（机上）	20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の予習・復習を心掛ける。
- ②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③必要に応じてミニテストを行い理解を深める。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、基本セット（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エクスプローラー、ミラー、ピンセット）グローブ、ゴーグル、トレーニング用石膏模型

成績評価方法

出席状業、学習態度 ※適時ミニテストを行うこともある。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

①予習として教科書をよく読んでおくこと。②専門用語とその意味を理解すること。③ミニテスト範囲を説明するので、復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。④実技については、自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置論Ⅰ－Ⅱ （う蝕予防）	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	若木まみ 佐藤暁子 他	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識・技術、および態度を習得する。				
	到達目標				
	①フッ化物歯面塗布法の術式を説明できる。 ②フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。 ③う蝕活動性試験の目的・種類を説明できる。 ④う蝕活動性試験を実施できる。 ⑤対象者のう蝕活動性を評価し問題点を列記し、う蝕予防プログラムを立案できる。 ⑥小窩裂溝充填塞法の種類と特徴を説明できる。 ⑦小窩裂溝充填塞法の術式を説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	カリオロジー学	11	う蝕に関する検査（カリエスリスク・テスト）④う蝕活動性試験の実際（RD・SM・LB・カリオスタッド・緩衝能）（実習）
2	フッ化物の応用 p 233～253フッ化の基本、薬剤、保管方法など（講義）	12	カリエスリスク検査の実際⑤検査結果の評価（演習）
3	フッ化物の応用 p 233～254歯面塗布の術式、洗口法、フッ化物配合歯磨剤について（講義）	13	カリエスリスク検査の実際⑥まとめ（講義）
4	フッ化物の応用 p 253～256 フッ化物の毒性と急性中毒への対応（講義）	14	小窩裂溝塞填塞法① p258～265適応歯と種類、術式、注意点など
5	フッ化物の応用 p 256～258 ライフステージ別のフッ化物局所応用（講義）	15	小窩裂溝塞填塞法②術式の実際（マネキン実習またはデモ）
6	フッ化物の応用 フッ化物洗口・フッ化物歯面塗布（綿球法、トレー法）の術式と注意点（マネキン・自己実習）	16	科目試験の振り返り、まとめ
7	唾液・プラーク	17	
8	う蝕に関する検査（カリエスリスク・テスト）① p174～182う蝕活動性試験の意義・条件・目的（講義）	18	
9	う蝕に関する検査（カリエスリスク・テスト）②実習のオリエンテーション	19	
10	う蝕に関する検査（カリエスリスク・テスト）③う蝕活動性試験の実際（RD・SM・LB・カリオスタッド・緩衝能）（実習）	20	

講義方法

①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。②マネキン実習は：マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。③実習：自己または相互で実際の口腔内を利用し、感染対策を考慮しながら行う。

講義で使用する機器・教材

(講義) PC、プロジェクター

(実習) マネキン顎模型、基本セット(ミラー、ピンセット)、簡易防湿(コットンロール等)、フッ化物塗布準備一式、カリエスリスク検査一式、シーラント一式

履修上の注意事項

講義を必ず受講し、実習に参加すること。限られた時間で実習を行うため、欠席すると学習に大きく影響するので注意すること。

新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

期末試験 ※必要に応じてミニテスト

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。
- ②専門用語とその意味を理解すること。
- ②ミニテスト範囲を説明するので、復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ③実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置論Ⅰ－Ⅱ(歯周)	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	若木まみ 佐藤暁子 他	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科予防処置についての専門的な基礎知識と医療職としてあるべき態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯周治療の方法を理解し、歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ②シックル型スケーラー、グレーシー型キュレット等器具の種類、特徴を説明できる。 ③スケーリング技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、シックルスケーラーの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	スケーリング基礎技法（マネキン実習）① マネキンでの基本操作（ポジション、レスト、ミラーの役割等）M23	11	Sc実技試験
2	スケーリング基礎技法（マネキン実習）② #43～#33	12	Sc実技試験
3	スケーリング基礎技法（マネキン実習）③ スケーリングでの器具操作の基本 #13～23	13	再試験又は自己トレーニング
4	スケーリング基礎技法（マネキン実習）④⑤ スケーリングでの器具操作の基本 #34～37（舌側）	14	シャープニング（シックル）の基礎実習①
5	スケーリング基礎技法（マネキン実習）④⑤ スケーリングでの器具操作の基本 #34～37（頬側）	15	シャープニング（シックル）の基礎実習②
6	スケーリング基礎技法（マネキン実習）⑥ プロービング・エクスプローリングの基本 ※実技試験について	16	相互実習基本技術オリエンテーション
7	スケーリング基礎技法（マネキン実習）⑦ #24～27		
8	スケーリング基礎技法（マネキン実習）⑧ #14～#17		
9	スケーリング基礎技法（マネキン実習）⑨ 総合		
10	スケーリング基礎技法（マネキン実習）⑩ 総合 実技試験オリエンテーション		

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習：実際の口腔内での操作を想定し、器具・器材の安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、基本セット（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エクスプローラー、ミラー、ピンセット）グローブ、ゴーグル、サンドペーパー、拡大鏡、シャープニングストーン、テスター、分度器、油性ペン、トレーニング用石膏模型

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、実技試験、出席状業、学習態度

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

- ①事前に予習し教科書をよく読んでおくこと。
- ②専門用語とその意味を理解すること。
- ③自発的な自己トレーニングを怠らないこと。
- ④休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	24
		単位時間数	45	単位数	3
講師名	佐藤暁子 加藤美智子 若木まみ	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、対象者（個人、集団）の情報を評価し、歯科衛生士診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムの計画立案する一連の方法を学ぶ。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	集団保健指導とは	16	生活習慣の指導②
2	集団保健指導とは	17	ストレスマネジメント
3	歯科保健指導の概要	18	ライフステージに対応した歯科衛生士介入
4	口腔の基礎知識	19	歯科衛生士介入 妊産婦期
5	う蝕と歯周病の基礎知識	20	歯科衛生士介入 乳児期
6	食生活指導のための基礎知識①	21	歯科衛生士介入 幼児期
7	食生活指導のための基礎知識②	22	歯科衛生士介入 学齢期
8	行動変容に関する理論	23	歯科衛生士介入 成人期
9	歯科衛生過程の進め方	24	歯科衛生士介入 老年期
10	歯科衛生過程の勧め方	25	
11	歯科衛生アシスタントとしての情報収集と情報処理	26	
12	歯科衛生アシスタントとしての情報収集と情報処理	27	
13	口腔衛生管理に関わる指導①	28	
14	口腔衛生管理に関わる指導②	29	
15	生活習慣の指導①	30	

講義方法

講義、演習、グループディスカッション、小テスト

講義で使用する機器・教材

パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物、iPad

成績評価方法

筆記試験100%

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

予習復習のアドバイス

欠席や遅刻をせず、歯科保健指導論の基礎となる部分を身に付けられるよう

意欲的に学んでください。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導 II（演習）	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤暁子 加藤美智子 若木まみ	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科保健指導において、対象者の健康を保つためのセルフケアに必要な口腔清掃用具の種類と使用目的について学ぶ。				
	到達目標				
	歯科保健指導において歯科衛生士が使用するさまざまな口腔清掃用具の使用法を学び、その基本的技術に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯ブラシの知識	11	集団指導資料作成
2	歯ブラシの知識実習	12	集団指導資料作成
3	各種清掃用具	13	集団指導発表
4	各種清掃用具実習	14	ブラッシング指導
5	歯磨剤の知識	15	ブラッシング指導実習
6	企業 ライオン製品全般	16	口腔清掃用具
7	ブラッシング法	17	
8	ブラッシング法実習	18	
9	企業 ソニックエアー	19	
10	企業 デンタルガム	20	

講義方法

講義、演習、実習、グループディスカッション、小テスト

講義で使用する機器・教材

パワーポイント、プロジェクター、配布資料、歯ブラシセット

履修上の注意事項

1. 歯科予防処置論・歯科保健指導論の教科書は必ず持参すること
2. 配布資料は無くすことのないよう保管すること
3. 準備物に変更の際は忘れ物がないようにすること

成績評価方法

筆記試験100%

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅰ①	講義曜日	木曜日	講義回数	20/30
		単位時間数	40/60	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 他	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び身につける。歯科材料、機器の種類、使用目的、用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	歯科診療補助及び歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習得し、臨床の場に対応できるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯科診療の概念 心得、身だしなみ	11	石膏の取り扱い（実習）
2	歯科材料・器材、機械の種類と特性 ユニット、滅菌消毒器	12	石膏の取り扱い（実習）
3	医療安全と感染予防 手指衛生 個人防護	13	歯科材料学総論（高橋） 歯科材料の基本的性質
4	滅菌、消毒	14	印象材、種類と用途、性質（高橋） アルジネート印象材、寒天印象材
5	滅菌、消毒	15	合成ゴム質印象材（高橋） シリコンゴム印象材
6	歯科診療における基礎知識 共同動作 フォーハンド	16	模型材（高橋） 歯科用石膏の種類と用途、性質
7	印象材の取り扱い（実習） アルジネート印象	17	合着材、接着材の取り扱い（実習）
8	印象材の取り扱い（実習） アルジネート印象	18	合着材、接着材の取り扱い（実習）
9	印象材の取り扱い（実習） 連合印象（寒天・アルジ・合成ゴム質）	19	成形歯冠修復材の取り扱いの取り扱い（講義・実習）
10	印象材の取り扱い（実習） 連合印象（寒天・アルジ・合成ゴム質）	20	仮封材の取り扱い（講義・実習）

講義方法

教科書・スライド・プリント、実習

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。連絡、掲示に注意してください。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により評価対象となります。

日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみチェック項目で総合的に評価する

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助、歯科材料、歯科機器

指示のあったもの

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して予習復習すること

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅰ②	講義曜日	木曜日	講義回数	10/30
		単位時間数	20/60	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 他	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び身につける。歯科材料、機器の種類、使用目的、用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	歯科診療補助及び歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習得し、臨床の場に対応できるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	暫間被覆冠、仮着材の取り扱い (講義・実習)	11	
2	共同動作の基本実習について	12	
3	合着・接着材の性質（高橋） 種類と用途	13	
4	成形歯冠修復材の性質（高橋） 種類と用途	14	
5	仮封・仮着材の性質（高橋） 種類と用途	15	
6	ワックスの性質、その他（高橋） 種類と用途	16	
7	共同動作の基本実習 患者誘導、ポジション、ライティング	17	
8	共同動作の基本実習 フォーハンド、器具の受け渡し	18	
9	共同動作の基本相互実習 患者誘導、ポジション、ライティング	19	
10	共同動作の基本相互実習 滅菌・消毒、フォーハンド、バキューム	20	

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。 掲示に注意してください。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により評価対象となります。

日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみチェック項目で総合的に評価する

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助、歯科材料、歯科機器

指示のあったもの

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して復習すること

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置論Ⅱ - (歯周) 前期① (32回：演習)	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	若木まみ 佐藤暁子	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯周治療の方法を理解し、歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ②グレーシーキュレット等器具の種類、特徴を説明できる。 ③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	SRPの基礎技術① Gキュレット基本操作（石膏棒）	11	シャープニング基礎実習②
2	SRPの基礎技術① Gキュレット基本操作（石膏棒）	12	下顎のSRP基礎振り返り ※人工歯石付与について（上顎）
3	SRPの基礎技術② Gキュレット基本操作（石膏棒）	13	SRP基礎技法④（マネキン実習） #13～#23（唇側・口蓋側） ※歯肉なし
4	SRPの基礎技術②Gキュレット基本操作（0度挿入）※人工歯石付与について（下顎）	14	SRP基礎技法④（マネキン実習） #13～#23（唇側・口蓋側） ※歯肉なし
5	SRPの基礎技法①（マネキン実習） #43～#33（唇側・舌側） ※歯肉なし	15	SRP基礎技法⑤（マネキン実習） #24～#27（口蓋・頬側） ※歯肉なし
6	SRPの基礎技法①（マネキン実習） #43～#33（唇側・舌側） ※歯肉なし	16	SRP基礎技法⑤（マネキン実習） #24～#27（口蓋・頬側） ※歯肉なし
7	SRPの基礎技法②（マネキン実習） #44～#47（頬側、舌側） ※歯肉なし	17	
8	SRPの基礎技法②（マネキン実習） #44～#47（頬側、舌側） ※歯肉なし	18	
9	SRPの基礎技法③（マネキン実習） #34～#37（頬側、舌側） ※歯肉なし	19	
10	SRPの基礎技法③（マネキン実習） #34～#37（頬側、舌側） ※歯肉なし	20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける
- ②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習：実際の口腔内で器具操作を想定し、器材の安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。
- ④適時ミニテスト・課題を出すことがある

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、基本セット（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エキスプローラー、ミラー、ピンセット）グローブ、ゴーグル、サンドペーパー、拡大鏡、シャープニングストーン、テスター、分度器、油性ペン、トレーニング用石膏模型

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

実技試験、出席状業、実習・学習態度

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本 歯周疾患 歯周治療

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで、実習に臨む。
- ②グレーザー型キュレットの構造と特性をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法、刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。⑤休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置論Ⅱ - (歯周) 前期② (32回：演習)	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	若木まみ 佐藤暁子	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯周治療の方法を理解し、歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ②グレーシーキュレット等器具の種類、特徴を説明できる。 ③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。 ⑤PTCの目的を理解し基本的な技術を身に着ける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	SRP基礎技法⑥（マネキン実習） #14～#17（口蓋・頬側）※歯肉なし※実技試験について	11	PTC・歯面研磨（講義）
2	SRP基礎技法⑥（マネキン実習） #14～#18（口蓋・頬側）※歯肉なし※実技試験について	12	PTC・歯面研磨・講義 ※歯面研磨基礎実習オリエンテーション
3	シャープニング基礎実習③	13	歯面研磨基礎実習（マネキン）
4	上顎SRP振り返り ※人工歯石付与	14	歯面研磨基礎実習（マネキン） ※PTC・PMTC基礎実習オリエンテーション
5	総合自由練習	15	PTC・PMTC基礎実習（マネキン）
6	試験オリエンテーション ※人工歯石付与	16	PTC・PMTC基礎実習（マネキン）
7	実技試験	17	
8	実技試験	18	
9	再試験または自己トレーニング	19	
10	再試験または自己トレーニング	20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③相互実習：学生間の実際の口腔内で器具・器材が安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エクスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、サンドペーパー、拡大鏡、シャープニングストーン、テスター、分度器、油性ペン、トレーニング用石膏模型、エプロン、低速エンジン、コントラアングル、歯面研磨材

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

実技試験、出席状況、実習、学習態度

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで、実習に臨む。
- ②グレイジー型キュレットの構造と特性をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法、刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。
- ⑤休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置論Ⅱ - (歯周) 後期① (32回：演習)	講義曜日	時間割参照	講義回数	17
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	若木まみ 佐藤暁子 他	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①口腔内の状況を把握し、情報を収集し、患者さんに口腔衛生指導ができる。 ②口腔内で歯周組織検査を実施できる（プロービング、BOP、動揺度、根分岐部病変等） ③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要なグレーシー型キュレット、シッケル型スケーラー等器具、器材を選択し操作できる。 ④歯周治療に必要な機器の操作ができる。（歯面研磨・歯面清掃、超音波スケーラー・エアースケーラー、歯面清掃器等）				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	禁煙の問題と指導（講義）①	11	B.歯周組織検査・口腔診査
2	周術期の口腔管理（講義）① ※口腔内観察オリエンテーション	12	A..問診・医療面接・PCR・バイタル B, 残り3人
3	A.口腔内観察 B.プロービング練習(マネキン)	13	
4	B.口腔内観察 A プロービング練習(マネキン)	14	A.SRP相互実習（上下顎前歯部） B.歯科保健指導計画
5	歯科衛生士過程について（講義）① ※相互実習オリエンテーション	15	A.SRP相互実習（上下顎前歯部） B.歯科保健指導(各15分の指導)
6	相互実習（歯周組織検査・口腔診査・PCR・バイタル・SRP）オリエンテーション	16	
7	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接、PCR・バイタル	17	B.SRP相互実習（上下顎前歯部） A.歯科保健指導計画
8	※A. 最初の1人	18	B.SRP相互実習（上下顎前歯部） A.歯科保健指導（各15分の指導）
9	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接・PCR・バイタル	19	
10	※A. 残り2人	20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③相互実習：学生間の実際の口腔内で器具・器材が安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。
- ④適時、ミニテスト・課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エキスポローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、フェイスシールド、超音波スケーラー、エアースケーラー、歯面研磨器材、PMTC器材、シャープニング器材、染めだし液、ワセリン、綿棒、ダッペングラス、歯磨きセット、手鏡、様式一式（口腔診査票・問診・歯周組織検査・指導計画表・歯科衛生士実地指導記録）

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、出席状業、学習態度、課題評価

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本歯周疾患・歯周治療

予習復習のアドバイス

- ①2年前期で学習した器具操作は、理解し教科書が無くても実施できるようにする。
- ②実習予定部位・内容について、器具、器材操作方法を教科書を読み予習しておく。
- ③自分が担当する患者役の口腔内の問題点と生活習慣や食習慣等との関わりを考察し理解、口腔衛生指導に反映する。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置論Ⅱ - (歯周) 後期② (32回：演習)	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	若木まみ 佐藤暁子 他	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①患者さんの全身の健康状態と口腔内の状況を把握し、情報を収集し口腔衛生指導ができる。 ②口腔内で歯周組織検査を実施できる（プロービング、BOP、動揺度、PCR、根分岐部病変等） ③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要な器材を選択し操作できる。（シッケル型スケーラー、グレーシー型キュレット、超音波スケーラー、エアースケーラー、歯面研磨、PMTC等） ④様々な患者が抱える口腔の問題点を把握し、行動変容へ導くための知識を学習する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	パワースケーラー（講義） ※科目試験範囲の公表	11	(45分)
2	パワースケーラー（マネキン実習）	12	B.SRP相互実習（上下右側臼歯部） A.PCR・歯科保健指導
3	A.SRP相互実習（上下左側臼歯部） B.PCR・歯科保健指導	13	*超音波Sc等の使用
4	*超音波Sc等の使用	14	(45分)
5	(45分)	15	SRP後の評価 振り返り（講）
6	B.SRP相互実習（上下左側臼歯部） A.PCR・歯科保健指導	16	科目試験
7	*超音波Sc等の使用	17	科目試験振り返り まとめ
8	(45分)	18	
9	A.SRP相互実習（上下右側臼歯部） B.PCR・歯科保健指導	19	
10	*超音波Sc等の使用	20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③相互実習：学生間の実際の口腔内で器具・器材が安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。
- ④適時、ミニテスト・課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エキスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、フェイスシールド、超音波スケーラー、エアースケーラー、歯面研磨器材、PMTC器材、シャープニング器材、染めだし液、ワセリン、綿棒、ダップングラス、歯磨きセット、手鏡、様式一式（口腔診査票・問診・歯周組織検査・指導計画表・歯科衛生士実地指導記録）

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、出席状業、実習・学習態度、課題評価

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本歯周疾患・歯周治療

予習復習のアドバイス

- ①2年前期で学習した器具操作は、理解し教科書が無くても実施できるようにする。
- ②実習予定部位・内容について、器具、器材操作方法を教科書を読み予習しておく。
- ③自分が担当する患者役の口腔内の問題点と生活習慣や食習慣等との関わりを考察し理解、口腔衛生指導に反映する。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。
- ⑤休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	歯科保健指導Ⅱ (臨床応用)	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講 師 名	佐藤暁子 加藤美智子 若木まみ	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講 義 目 標	一般目標				
	歯科保健指導において、対象者の健康を保つためのセルフケアに必要な口腔清掃用具の種類と使用目的について学ぶ。				
	到達目標				
	歯科保健指導において歯科衛生士が使用するさまざまな口腔清掃用具の使用法を学び、その基本的技術に習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	学校保健における集団保健指導 ①資料作成	11	学校保健における集団保健指導 ⑪発表
2	学校保健における集団保健指導 ②資料作成	12	口腔清掃用具
3	学校保健における集団保健指導 ③資料作成	13	配慮を要する者への歯科衛生士介入 ALS
4	学校保健における集団保健指導 ④仮発表	14	義歯装着に必要な口腔清掃用具
5	学校保健における集団保健指導 ⑤仮発表	15	窒息の対処法
6	学校保健における集団保健指導 ⑥修正・練習	16	歯科保健指導まとめ
7	学校保健における集団保健指導 ⑦修正・練習	17	
8	学校保健における個別保健指導⑧TBI	18	
9	学校保健における個別保健指導⑨TBI	19	
10	学校保健における集団保健指導 ⑩発表	20	

講義方法

座学、演習、実習

講義で使用する機器・教材

パワーポイント、プロジェクター、iPad

成績評価方法

筆記試験100%

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	38/64
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 佐藤暁子 若木まみ 他	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務 佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械のy説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	感染予防 手指衛生、個人防護	10	ミラー、バキュームテクニック 相互実習（白歯）
2	感染予防 滅菌・消毒の実際	11	印象採得実習（アルジネート片顎）
3	歯科診療補助の基本 記録、略語、各種名称（確認テスト）		印象採得実習（アルジネート前歯回転）
4	歯科診療補助の基本 記録、略語、各種名称（確認テスト）	12	知識実技確認
	共同動作の基本	13	知識実技確認
5	共同動作の基本実習 ユニット操作 患者誘導 ライティング ポジション	14	連合印象採得実習（寒天＋アルジネート）
6	共同動作の基本実習 バキュームテクニック（マネキン）	15	連合印象採得実習（寒天＋アルジネート）
7	①ミラー、バキュームテクニック 相互実習	16	連合印象採得実習（寒天＋アルジネート）
8	②アルジネート練和	17	連合印象採得実習（寒天＋アルジネート）
9	③石膏柱	18	連合印象採得（合成ゴム質）歯肉圧排 石膏

回数	講義内容	回数	講義内容
19	印象採得実習（合成ゴム質） 歯肉圧排 石膏	29	口腔内写真撮影 編集
20	印象採得実習（合成ゴム質） 歯肉圧排 石膏	30	口腔内写真撮影 評価 まとめ
21	仮封、仮着材の取り扱い	31	保存治療の診療補助① 器具と材料
22	成形歯冠修復材の取り扱い	32	保存治療の診療補助② 器具と材料
23	歯科診療の受診の流れ・共同動作 診票の考察	33	補綴治療時の診療補助① 器具と材料
24	歯科診療の受診の流れ・共同動作 患者誘導	34	補綴治療時の診療補助② 器具と材料
25	検査記録について 口腔内写真撮影方法	35	口腔外科治療時の診療補助 器具と材料
26	検査記録について リトラクターの使い方、シェードテイク	36	口腔外科治療時の診療補助 器具材料 歯肉包帯
27	口腔内写真撮影実習	37	ラバーダム実習
28	口腔内写真撮影実習	38	T e C 模型作成 前歯・大白歯 印象採得実習

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。掲示に注意してください。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります

日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験・身だしなみチェック項目で総合的に評価する

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 歯科機器 各教科の教科書

予習復習のアドバイス

教科書・プリントを使用して復習すること 1年時の復習をしておいてください

講義要項（シラバス）

年 度	2021年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	26/64
		単位時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 他	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助行為に関する知識と基本的技術を習得し、臨床現場で十分対応できるように、治療内容に応じた歯科診療の補助に対応できる応用力を身につける。				
	到達目標				
	歯科診療補助行為に関する知識と基本的技術を習得し、臨床現場で十分対応できるように、治療内容に応じた歯科診療の補助に対応できる応用力を身につける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
39	TeC模型作成 石膏	48	口腔外科、アシスタントワーク実習
	TeC模型作成 トリミング	49	口腔外科、アシスタントワーク実習
40	T e C 作成実習	50	実技確認
41	T e C 作成実習	51	実技確認
42	T e C 作成実習	52	実技テスト
43	矯正歯科の診療補助	53	実技テスト
44	矯正歯科の診療補助	54	試験
45	審美歯科の診療補助	55	試験解説
46	義歯作成の診療補助	56	まとめ
47	口腔外科、アシスタントワーク実習	57	歯科衛生士が摂食嚥下リハに果たす役割とは

回数	講義内容	回数	講義内容
58	摂食嚥下障害とは		
59	摂食嚥下障害 評価		
60	間接訓練		
61	直接訓練		
62	発達期の摂食嚥下機能障害の原因		
63	発達期の摂食嚥下機能障害の訓練・指導		
64	発達期の摂食嚥下機能障害の訓練・指導		

講義方法

教科書・スライド・プリント 講義、演習を行う

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。掲示に注意してください。適宜PC等を使用する

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に講義に臨むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・小テスト・定期試験で総合的に評価する

複数の教員でカリキュラム運営を行うため、それぞれでの小テスト、課題、実習態度などを踏まえて総合的に評価する。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 歯科機器 各教科の教科書
 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版（医歯薬出版株式会社）

予習復習のアドバイス

教科書・プリントを使用して復習すること

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅲ－1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	若木まみ 佐藤暁子 他	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔健康管理に必要な知識を総合的に学び、臨床へ応用できる実践力を身に着ける。				
	到達目標				
	①歯周病の概要を理解し、その治療方法や全身疾患との関わりについて説明できる。 ②歯周病を臨床で予防することの重要性を理解し、実践できる。 ③歯周病の治療におけるメンテナンス、SPTの重要性を理解し、説明できる。 ④症例に対して問題点を抽出し、歯科衛生過程に基づき、指導計画を立て説明できる。 ⑤口腔健康管理の視点を持ち、全身の健康と口腔の健康の関わりを広義に深く考える。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯周病概要・治療法	11	事例演習
2	歯周病概要・治療法	12	食生活と歯科疾患
3	歯周病と全身疾患	13	食生活や生活習慣に関する事例検討
4	歯周病の予防	14	食生活や生活習慣に関する事例検討
5	メンテナンスとSPT	15	科目試験
6	メンテナンスとSPT	16	
7	口腔健康管理と歯周病	17	
8	口腔健康管理と歯周病 ※期末試験範囲提示	18	
9	プラークコントロールに関する事例検討	19	
10	プラークコントロールに関する事例検討	20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す
- ②演習：グループワークを通して司会・記録・発言者の役割を理解し討論が進みやすい配慮ができる。
- ③発表：症例に対する検討を深め、自分の考えをまとめ発表することができる。
- ④適時、ミニテストや課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

P C、プロジェクター、iPad、アダプター、レーザーポインター、タイマー

履修上の注意事項

与えられた課題に対して、クリティカルシンキングを基本とした考察と、常にエビデンスへの探求心を持つ。
グループワークについては、グループ内で役割を決めて計画的に進行するため、くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。

万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。 新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、出席状況、学習態度 ミニテスト・課題提出状況・評価

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本 歯周疾患 歯周治療

参考書

予習復習のアドバイス

- ①グループワークでは、それぞれの役割の責任を果たすように、深い考察と率先した発言と行動を行う。
- ②自分の学習状況での得意、不得意な部分を把握し、国家試験の学習計画に反映する。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅲ－2(歯周)	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	若木まみ 佐藤暁子 他	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔健康管理に必要な知識を総合的に学び、臨床へ応用できる実践力を身に付ける。				
	到達目標				
	①患者の齲蝕・歯周病発症に関わる問題点を生活習慣や食生活、全身疾患等を通して広く考察し、指導計画に反映できる。				
	②国家試験の対策を踏まえ、歯科予防処置・歯科保健指導と関係した内容を改めて復讐する。 ③災害歯科保健に関する基礎知識を理解する。 ④中程度以上の歯周病における原因除去療法の実際に症例検討を通して触れることで、臨床に備える。 ⑤症例発表を体験し、歯科衛生士として学習を続ける必要性を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	う蝕・歯周病の特性	11	症例発表
2	口腔内の情報収集	12	症例発表
3	災害歯科保健と歯科衛生士	13	科目試験
4	栄養と歯科保健指導の要点	14	歯科予防処置
5	摂食嚥下（国試対策）	15	歯科予防処置 （歯周外科処置を中心に国試対策）
6	摂食嚥下（国試対策）	16	歯科予防処置他（国試対策・まとめ）
7	症例検討について①	17	
8	症例検討②	18	
9	症例検討③	19	
10	症例検討④	20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す
- ②演習：グループワークを通して司会・記録・発言者の役割を理解し討論が進みやすい配慮ができる。
- ③発表：症例に対する検討を深め、自分の考えをまとめ発表することができる。
- ④適時、ミニテストや課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

P C、プロジェクター、iPad（各学生）、アダプター、レーザーポインター、タイマー

履修上の注意事項

与えられた課題に対して、クリティカルシンキングを基本とした考察と、常にエビデンスへの探求心を持つ。

グループワークについては、グループ内で役割を決めて計画的に進行するため、くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。

万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、出席状況、学習態度、課題提出状況・評価

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

参考書

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版

予習復習のアドバイス

- ①1, 2年で学んだことを、再度見直し反復学習する。
- ②自分の学習状況での得意、不得意な部分を把握し、国家試験の学習計画に反映する。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅲ－1（臨床応用）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤暁子 加藤美智子 若木まみ	実務経験	加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務 佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科保健指導において、対象者の健康を保つために必要な口腔清掃方法指導を実施するための技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決方法を選択できる能力と口腔保健管理方法の知識、技術、態度を習得する。 ・歯科衛生士が関与する地域保健活動について理解をし実践できる能力を身に付ける。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	学校保健における集団指導①作成	11	学校保健における集団指導⑪発表
2	学校保健における集団指導②作成	12	禁煙指導
3	学校保健における集団指導③作成	13	禁煙指導グループディスカッション
4	学校保健における集団指導④仮発表	14	歯科保健指導TBI・患者説明
5	学校保健における集団指導⑤仮発表	15	インプラントTBI
6	学校保健における集団指導⑥修正・練習	16	
7	学校保健における集団指導⑦修正・練習	17	
8	学校保健における個別指導⑧TBI	18	
9	学校保健における個別指導⑨TBI	19	
10	学校保健における集団指導⑩発表	20	

講義方法

座学・実習・演習

iPadを使用した資料作成

講義で使用する機器・教材

マネキン、顎模型、歯ブラシセット、iPad

履修上の注意事項

欠席や遅刻をせず、歯科保健指導論の基礎となる部分を身に付けられるよう意欲的に学んでください。

成績評価方法

筆記試験100%

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書をよく読んで 予習復習してください。

国家試験問題集を使用して復習してください。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅲ－2	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤暁子 加藤美智子 若木まみ	実務経験	加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務 佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科保健指導において、対象者の健康を保つために必要な口腔清掃方法指導を実施するための技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	・問題発見・解決方法を選択できる能力と口腔保健管理方法の知識、技術、態度を習得する。 ・歯科衛生士が関与する地域保健活動について理解をし実践できる能力を身に付ける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	訪問口腔衛生指導 認知症	11	生活自立度の対策
2	訪問口腔衛生指導 拒否	12	舌接触補助床
3	訪問口腔衛生指導	13	訪問口腔衛生指導診療報酬
4	訪問口腔衛生指導 口腔乾燥 非経口摂取	14	企業
5	訪問口腔衛生指導 脳血管疾患	15	企業 MIペースト
6	食形態	16	歯科保健指導 まとめ
7	口腔ケア相互実習	17	
8	口腔ケア相互実習	18	
9	口腔機能低下症	19	
10	口腔機能低下症 実習	20	

講義方法

マネキンを使用した実習・演習
iPadを使用した資料作成

講義で使用する機器・教材

マネキン、顎模型、歯ブラシセット、 iPad

履修上の注意事項

欠席や遅刻をせず、歯科保健指導論の基礎となる部分を身に付けられるよう意欲的に学んでください。

成績評価方法

筆記試験100%、

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書をよく読んで、予習復習してください。
講義後は国家試験問題集で復習しましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅲ－1	講義曜日		講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子 加藤美智子 若木まみ 他	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。				
	到達目標				
	治療に必要な知識を習得し、治療の準備、術中の介補、術後の管理が適切にできる。患者の状態状況に応じた対応が出来る。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	共同動作 復習 実習説明	11	実技確認
2	共同動作 実習 予備診査～術前清掃	12	小児歯科の診療補助（講義・実習）
3	共同動作 実習 予備診査～術前清掃	13	矯正歯科の診療補助（講義・実習）
4	印象材 アルジネート練和練習	14	その他、インプラント、審美歯科の診療補助
5	各種セメント練和 練習	15	診療補助Ⅲ－①まとめ テスト解説
6	症例に応じた器材準備と患者対応	16	
7	症例に応じた器材準備と患者対応	17	
8	症例に応じた器材準備と患者対応	18	
9	症例に応じた器材準備と患者対応	19	
10	実技確認	20	

講義方法

教科書・スライド・プリント、講義と実習

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。 連絡、掲示に注意してください。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に臨むこと。

実習では身だしなみを整えること。チェック項目により評価対象となります。

日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験・身だしなみで総合的に評価する。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料・歯科機器 各教科の教科書

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書を読んで予習してください。 2年次での学習内容を確認しておいてください。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅲ-2	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	笠原江利子 加藤美智子 他	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年間勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。歯科における審美とその重要性を理解する。審美歯科治療の種類や方法、カウンセリングを学び、ホワイトニング法を習得する。				
	到達目標				
	審美歯科に必要な知識を習得し、ホワイトニングの術式、特徴が説明できるようになる。また実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	審美歯科の診療補助 ホワイトニング	11	ホワイトニング後の測色・測定と撮影
2	審美歯科の診療補助 ホワイトニングカウンセリング実習	12	ホワイトニング後の測色・測定と撮影
3	カスタムトレーのための印象採得実習	13	ホワイトニングの評価と振り返り
4	カスタムトレーのための印象採得実習	14	国試対策
5	石膏模型トリミング仕上げ	15	国試対策
6	オフィスホワイトニング相互実習説明	16	テスト解説
7	カスタムトレー作成 プレス	17	
8	カスタムトレー作成 プレス	18	
9	オフィスホワイトニング相互実習	19	
10	カスタムトレー作成 プレス	20	

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・定期試験・身だしなみで総合的に評価する

教科書

歯科衛生士ベーシック ホワイトニング

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書を読んで予習、復習してください。2年次での学習内容を確認しておいてください。